

# Teens Press

～10代のあなたへおくる～

第5号 2017年10月発行  
発行：世田谷区立中央図書館  
(世田谷区弦巻3-16-8)  
電話：3429-1811  
FAX：3429-7436  
図書館ホームページ  
<http://libweb.city.setagaya.tokyo.jp/>

## <図書館で雑誌を(も)読もう!>

図書館といえば「難しい字の本ばかり...」というイメージはありませんか?

世田谷区の図書館では、雑誌もたくさん所蔵しています。その数、なんと約1300タイトル! スポーツ・ファッション・音楽・囲碁将棋・芸術・留学・模型...多くのジャンルを揃えています。勉強などで疲れたら、自分の好きな雑誌を手にとって、ちょっと「ひと休み」してみませんか?



(中央図書館の1階の雑誌棚です。たくさん並んでいます!)



『CanCam』(2017年10月号〔小学館〕)

ファッションやスポーツの雑誌は特に人気!!



『サッカーダイジェスト』  
(2017年9月28日号)  
(日本スポーツ企画出版社)



## <「縮刷版」って何?>

図書館には新聞もおいてあります。

では、何ヶ月も前の新聞はどうなるのでしょうか? あの大きな新聞紙では、保管場所を確保するのも大変です。そこで登場するのが、「縮刷版」です。「縮刷版」とは新聞を約30%に縮小して、一か月分をまとめて本にしたものです。

自分の生まれた日の新聞を調べてみるのも

面白いかもしれませんよ。

(朝日、日経、毎日、読売新聞等の縮刷版があります)

## ～図書館へ行こうよ!～

図書館を利用したことがない人は、まず利用者登録をしましょう! 学生証や保険証などの住所の書かれた身分証を持って、近くの図書館で申し込んでください。

登録のときに「パスワード登録」をしておくと、窓口だけでなくインターネットや館内の検索用端末からも、予約や延長ができるようになります(後からでも設定できます)。

図書館の資料は、一部の館内資料や雑誌の最新号をのぞいて、2週間借りることができます。

近くの図書館にほしい本がないときは、予約をすると他館から取り寄せをすることができますし、区内に住んでいる人なら所蔵のない本でもリクエストすることができます。

## 図書館員オススメの一冊!



「きみの声を聞かせて」  
小手鞠い著(偕成社)  
東京に住む中2の失語症の少女と、ニューヨークに住むピアノが大好きな15歳の少年が主人公です。

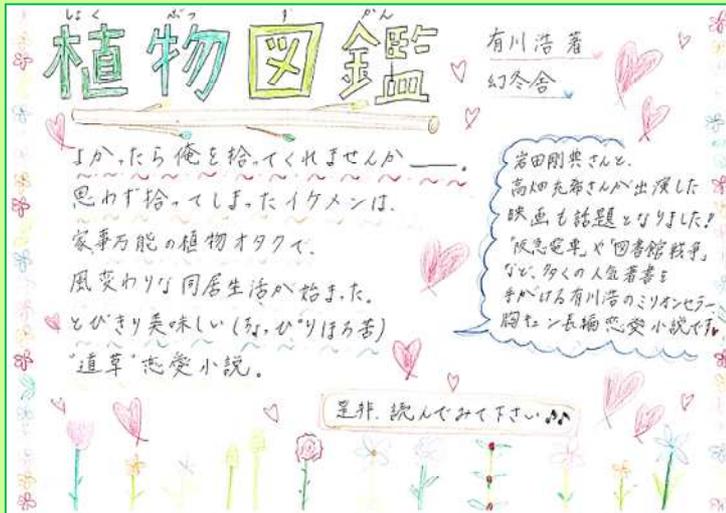
二人はソーシャルメディアを使い、それぞれの表現方法である「詩」と「音楽」で交流をしていきます。人はなぜ心を閉ざすのか、傷付くことや悩みとは何かを考えさせてくれる一冊です。

中高生が選ぶ！

# オススメ本紹介



中央図書館に職場体験やボランティア体験に来てくれた中高生たちに、オススメの本を紹介してもらいました！ 全て世田谷区の図書館で所蔵しています。ぜひ読んでみてくださいね。



「植物図鑑」有川浩著（幻冬舎）

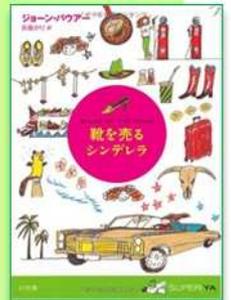
私立高2年・Fさんのオススメ。  
映画化もされた有名な一冊です。



私立高1年・Mさん

「靴を売るシンデレラ」ジョーン・バウアー著 灰島かり訳（小学館）

主人公は靴店でアルバイトをする16歳。彼女はひとつひとつの靴に想いを込め、丁寧に売っていく。靴を売りながら、家族に向き合い成長していくひと夏を描いた物語。気がついたら涙が溢れていた...主人公の行動に勇気づけられる一冊！



「もう誘拐なんてしない」東川篤哉著（文藝春秋）

この本の主人公は20歳の大学生、樽井翔太郎。ひょんなことから花園組（ヤクザ!!）の組長の娘、絵里花を助けることになる。絵里花には腎臓の病気で入院している義理の妹がいた。その妹の手術代を得るため絵里花を狂言誘拐することに。果たして狂言誘拐は成功するのか？最後までハラハラドキドキ！！

ボケとつつこみがたくさん入っているので電車の中では笑い声をおさえるのが大変かも！？

都立高2年・Uさん

「さよならドビュッシー」中山七里著（宝島社）

16歳の遥はピアニストを目指し、日々練習に励んでいた。そんな中、祖父と従姉妹のロシアとともに火事に遭い、全身に大火傷を負いながらも、ひとりだけ生き残る。手を動かすことすら難しい状態になり、それでもピアニストになる夢を叶えるために、コンクール優勝を目指し必死に練習するが...

最後まで展開が予想できないストーリーです。ミステリー好きな人にも、音楽好きな人にもオススメです！

私立高2年・Iさん



「賢治の祈りー銀河鉄道の夜から幕が上がるー」 講師：平田オリザさん

演劇教育にも幅広く貢献し、国内外を問わず活躍されている劇作家・演出家の平田オリザさんをお迎えして、中高生のみなさんに向けて講演会を行いました。

平田さん初の小説「幕が上がる」(平田オリザ著/講談社)はアイドルグループ「ももいろクローバーZ」が出演し、映画化されたことでも話題になりました。弱小演劇部の高校生たちが、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」を演目にした舞台で、全国大会に挑戦するというストーリーの青春小説です。

作中に登場する演劇作品に「銀河鉄道の夜」を取り上げたのは、2010~11年に平田さんがフランスの子どもたちのために制作を依頼され、取り組んだことがきっかけだそうです。

そんな折、東日本大震災が起こりました。「銀河鉄道の夜」は友だちを失う話でもあります。パリの公演では、舞台を見たフランスの子どもたちから被災者の方々へたくさんのメッセージが届いたという貴重なお話も伺えました。



また、「文学、芸術とは不条理と向き合うこと」など哲学的なお話から、首都圏と地方の文化資本の格差について、さらには数年後に迫る大学入試改革の話題まで内容は多岐にわたりました。そして何事も自分のオリジナリティを信じるのが大事という平田さんからのメッセージが強く心に残りました。

平田さんがかもしだす終始なごやかな雰囲気のおかげで、中高生のみなさんと充実した時間を共有することができました。

アンケートからは、「今まで以上に文学や演劇について関心を持た」「自分で考え、判断すること、人に流されないことはとても大事でこれからも大切にしていかなければならないと思った」などの感想をいただきました。未来にはばたく中高生にとって大変興味深い、充実した講演だったようです。

平田さんの著作は、「幕が上がる」の他にも多く世田谷区立図書館で所蔵しています。ぜひ読んでみてくださいね。



ぬいぐるみおとまり会

8月30日から9月2日まで、中央図書館で「ぬいぐるみおとまり会」を開催しました

このイベントは、小さい頃より図書館に親しみを覚えてもらおうとアメリカで始まり、最近日本でも広まってきています。子どもたちの大好きなぬいぐるみが図書館にお泊りし、「夜の図書館でぬいぐるみたちは何をしているのかな...?」をコンセプトに、ぬいぐるみたちのおはなし会やパソコンを使っての本の貸出作業の様子を、いかにも動いているようにうまく撮影します。そして一人一人に、その写真をカードにして、お迎えの時に渡します。カードを受け取った時の子どもたちの笑顔がとても印象的です。



Q&Aのコーナー

皆さんの中には将来、幼稚園や保育園の先生になりたいと思っていたり、児童教育に興味を持っている人もいないでしょうか。そこでお手伝いに来てくれた東京都市大学人間科学部児童学科の方々に、いくつか気になることを質問してみましたよ。



(ぬいぐるみおとまり会で手作りカードを渡す大学生のお姉さん)

**A. 本当に色々な人たちです!**

どんな人がいるの?

幼稚園や保育園の先生になりたい人もいれば、子ども関係の一般企業(児童書の出版社など)に就職したい人もいますよ。

大変?

**A. 少し変わった授業はあります!**

面白い授業はある?

例えば畑を作ったりもします。保育とあまり関係なさそうに見えますが、これも「食の保育」といって自家栽培をすることで栄養のことなどを学んでいるんですよ。

そのほかにも、課題で紙芝居や歌の絵本を作ったことも!

**A. 自分が好きなことを学んでいるから楽しい!**

開催しました

# 中高生の読書会



7月16日に中央図書館で中高生による「読書会」が開催されました！

参加者は【中学生：1名、高校生：7名】でした。

今回は第1回目、ということもあり、初めこそ遠慮がちでしたが、段々「その本読んだことある！」という声があがったり、内容や著者に関する質問も積極的に出て盛り上がっていました。



「読書会」って何？

A. 『数人の人が集まって読書をする会。同じテキストを使って行う輪読会式や研究会式、各自が自由に好きな本を読んで感想を述べ合う発表会式、テーマ読書会などがある。』（『最新図書館用語大辞典』より）

今回は「夢」という1つのテーマを設定して本を持ち寄るテーマ読書会を行いました。

夢をテーマに参加者が紹介した本

- 「夢十夜」/夏目漱石（岩波書店ほか）
- 「都会のトム&ソーヤ」/はやみねかおる（講談社）
- 「復活！！虹北学園文芸部」/はやみねかおる（講談社）
- 「アリス殺し」/小林泰三（東京創元社）
- 「星新一ショートショートセレクション」より  
『夢のような星』/星新一（理論社）
- 「予知夢」/東野圭吾（文藝春秋）
- 「安房直子コレクション1」より  
『きつねの窓』/安房直子（偕成社）
- 「銀河英雄伝説」/田中芳樹（徳間書店）



次回の開催予定日は...

【2017年12月17日(日) 10:30~】

会場：教育センター（中央図書館）3階会議室

友達と一緒にでも、気軽に1人での参加でも大歓迎です

詳細は図書館で配布されるちらしをご覧ください。

（11月から配布予定）

11月18日(土)開催 文字・活字文化の日記念講演会

## 「日本語と妖怪」講師:京極夏彦さん

参加申し込み  
受付中!

成城ホールで開催する文字・活字文化の日記念講演会の講師として、京極夏彦さんをお招きします。

「百鬼夜行」シリーズをはじめとしたミステリー作品を中心に、幻想的で少し怖い、でも一度読めば病みつきになってしまうような不思議な作品を多く生み出している京極夏彦さん。びっくりするくらい分厚い単行本や、着物を着たご本人の姿は目にしたことがある人も多いのではないのでしょうか。

講演会第一部は子ども読書リーダーによる読み聞かせや本の紹介など、第二部は講師の京極夏彦さんによる講演を行います。講演ではご自身の作品にも登場するような妖怪の世界や、文字・言葉の力などについて語っていただく予定です。皆さんもぜひこの機会に、京極夏彦さんの魅力あふれる作品に触れてみてくださいね。講演会の参加申し込み受付は、10月15日(日)から10月27日(金)までです。詳しくは講演会チラシや図書館ホームページをご覧ください。

### -京極夏彦さんの本-

図書館ではこの他にも多数の本を所蔵しています



うぶめ  
「姑獲鳥の夏」  
京極夏彦 著  
(講談社)



「ルー=ガルー  
—忌避すべき狼—」  
京極夏彦 著  
(講談社)



「どうぶこそう」  
京極夏彦 作  
石黒亜矢子 絵  
東雅夫 編  
(岩崎書店)

(妖怪えほん)



最近涼しくなってきましたね。前回の発行から約一年ですが、皆さんはその間にどんなことがありましたか？今年もこの新聞の中で紹介したように、図書館では毎年色々なイベントを行っています。昨年は参加出来なかった方も、今年はぜひ図書館に遊びに来てみてくださいね。